

令和2年度第1学期終業式式辞

校長 澤山 陽一

本日で1学期は終了します。例年とは異なり、少し長い1学期になりましたが、みなさんにとってはどんな1学期だったでしょうか。私は、始業式等で本年度、みなさんに心掛けてほしいことを3つ述べました。それは、自分の命はしっかり自分で守る、常に「笑顔と感謝」の気持ちを持って生活する、人の話を集中して聞く力を身に付けるの3つでした。

この1学期を振り返ると、授業ができなくなったり、多くの行事や大会が中止されるなど例年とは大きく異なる日々でしたが、大きな事故もなく、笑顔での挨拶も多く、聞く態度もすばらしく、皆勤者数も例年よりとても多い、落ち着いた学校生活を送られたと思っています。生徒のみなさん一人一人の努力に感謝いたします。

ところで、みなさん。耳を澄ませてください。何か夏らしい音が聞こえませんか。そう、セミの鳴き声です。今盛んに「シャシャシャシャ」と鳴いているのは、主に午前中に鳴くとされているクマゼミです。午後には、何かを油で上げているような「ジリジリジリジリ」というアブラゼミの声が聞こえてきます。そして夕方には、山の方から「カナカナカナカナ」とヒグラシの声がします。生徒のみなさんは、たとえどんなセミの鳴き声かは聞き分けられなくても「ジリジリ」や「カナカナ」がセミの声だということは、全員わかるのではないのでしょうか。実は、われわれ日本人は、虫の鳴き声や鳥の鳴き声などに非常に敏感な民族だといわれています。日本人以外の多くの民族は、それは単なる雑音にしか聞こえないようです。

話は変わりますが、先日「クネンポ」というミカンを探しているという方が本校にいらっしやいました。その方は「幼い頃に、おばあちゃんが「クネンポ」を味噌漬けにしてよく食べさせてくれました。その香りが懐かしくてたまらないので、その香りをもう一度かぎたくて「クネンポ」の木を探しているのです。」とおっしゃっていました。いったい、どんな香りなのでしょう。気になるところです。みなさんには、このように、香りにまつわる思い出はありますか。私は、フウランという花の甘い香りがかぐたびに、中学生のときにそのランを初めて見つけた情景を思い出します。

われわれは、今お話しした、セミの声などを聴き分ける聴覚、花の香りなどをかぎ分ける嗅覚のほかに、視覚、味覚、触覚の5つ、いわゆる五感を持っています。この五感を駆使することで、例えば、おいしいものを味わうことにより幸せな気持ちになったり、音楽を聞いて感動したり、マッサージを受けて気持ちよくなったりした経験が、みなさんには数多くあることでしょう。実は、そのような幸せな気持ちになる体験をすると、「オキシトシン」というホルモンが分泌されるそうです。この「オキシトシン」は「ハッピーホルモン」と呼ばれ、不安やストレスを和らげ、心が豊かになる働きを持っているといわれています。

本校では、授業や実習の中で五感を使うことがたくさんあります。つまりみなさんは「ハッピーホルモン」を分泌する機会に恵まれているということです。私は、みなさんにはこれまで以上に「五感を研ぎ澄ます」ことを意識した学校生活を送り、心豊かな人に成長してほしいと思っています。

いよいよ明日から、夏休みです。夏休みの細かい注意事項は、担任にお任せしていますが、一日一日を無駄に過ごすことなく、ハッピーホルモンを意識しながら、全員が充実した夏休みを送ってください。始業式に、全員そろって、元気に再会しましょう。